

西村大臣記者会見要旨

令和2年11月30日（月）17時25分～17時44分（19分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101、103会見室）

（大臣冒頭発言）週末に大阪府の吉村知事と電話会談を行いました。大阪府の感染状況、病床確保の状況など、情報共有をしたところ。国からも様々な支援をしてきているところですが、例の重症者センターが今日、建物としては出来上がるということだと思いますが、今後設備を入れたりしていく中で、できるだけ早く開設したいということで、看護師さんを初めとする人材確保についての要請がございました。厚労省と連携して、必要なサポートをしっかりと行っていきたいというふうに考えています。

それから情報発信の強化についてですけれども、テレビCMをやることにしておりましたが、12月3日から東京の民放5局、4日から東京以外の38局、全国43局で放送いたします。マスクの着用を徹底することも含めたものであります。本日インターネット上、私どものホームページから公開しておりますので、是非ごらんいただければと思います。

（動画）会食の際のお願いです。飲み会では大きな声が出がち。大人数、超時間だとさらに感染リスクが高まります。お店は感染防止のガイドラインを守っているかを選びましょう。店内では斜めに座り、会話のときにはマスクをつけましょう。詳しくはこちらで。

（大臣）ということでもあります。

それからコロナ対策サポーターに就任いただいております、プロ野球解説者の梨田昌孝さんから、この感染リスクの高まる5つの場面に関連するメッセージをいただいております。ごらんいただければと思います。

（動画）梨田昌孝です。もうすぐ年末年始です。クリスマスがやってきます。忘年会や新年会の季節です。会食の機会も増えます。今年の冬はいつもの冬と違う、初めての冬です。コロナの感染を避けながら、この冬を乗り越えましょう。

狭いところでたくさんの方が長い時間会食すると、密になります。お酒を飲むと気が緩んで、ついつい大声になったりします。遅くまで飲んでしまったり、はしご酒をすることはありま

せんか。マスクを外してしゃべりたくなりますよね。でも、こうしたところで感染が広がっています。今年の冬は、会食は是非是非皆さん御注意ください。お酒もほどほどがいいですね。大人数ではなく、いつもの仲間や御家族で楽しんでください。

3密を避けること、手洗い、マスクといったお一人お一人の気遣いが大事です。御自愛くださいますようお願いいたします。寒くなり感染が増えております。引き続き御協力をお願いいたします。かけがえのない御自身、御家族や大切な人たちを守りましょう。ありがとうございます。

(大臣) コロナ禍で初めての冬を迎えることとなります。どうしても寒くなってくると密閉した空間、それから乾燥した場面ということになりますので、今のお話にもありましたとおり、狭い場所で長い時間、あるいは大勢でマスクを外してということに、是非注意をいただきたいというふうに思います。

特に若い皆さんはどうしても活動量が多いです。元気だと思えます。でも無症状で知らず知らずのうちに広げてしまうことがありますので、是非マスク着用、そして斜めに座るとか距離を取る、長時間ではなく、そして少人数でということをご心がけていただくとありがたいと思います。

幾つかの地域で病床が逼迫してきています。大阪のように国としても全面的に支援をしていきます。また、北海道にも30人以上の看護師さん、保健師さんなどを派遣して対応してきているところでもありますけれども、是非若い皆さんにもお願いをしたいというふうに思います。

もう既に営業時間短縮などの措置が各地で取られていますけれども、こうした状況がずっと続けば、より強い措置を取らざるを得なくなってくるわけがあります。そうすると経済にも大きな影響が出てくるわけでありまして。若い皆さんの今後の就職活動とか、そういったことも影響を受けるわけでありまして。

なんとか経済への影響、ダメージを小さくしていくそのためには、是非お一人お一人に御協力をいただいて、マスク、手洗い、そしてもう実践をしていただいております3密の回避、こういうことを頭に置いておいていただいて、これからのシーズン、もう12月になってきますので、いろんな機会が通常なら増えると思いますけれども、是非皆さん方にもお願いをしたいというふうに思います。

感染状況などデータを少しお示ししますと、北海道は引き続き

き連絡を取り合っています。先週に比べて少し高どまっている傾向はありますけれども、引き続き病床は厳しい状況でありますので、10万人当たりも1週間で29人という非常に高い数字で高どまっているわけですから、是非とも効果を上げるためにも、営業時間短縮など要請に応じていただければというふうに思います。

東京も病床の確保が一番のポイントになってくると思います。あとは大阪については先ほど申し上げたように、看護師さんの確保など支援を行っていきます。兵庫は全員病院に入れていたということがありますので、ここは少し下がってくると思います。今は宿泊療養施設、ホテルのほうに移動を始めているところだと思います。

それから沖縄も少し高い数字になっているんですけども、沖縄も連絡を取り合っていますが、夏るときほどの逼迫感はまだないというふうに聞いています。この1週間で亡くなった方が1名ということ、重症化もしっかりとケアができていますというふうに聞いています。人数が20人の単位になってきていますので、それから1.14ということ、先週からは増加傾向になりますから、よく注意して見なきゃいけないというふうに考えております。コロナは以上です。

それから経済の話は1点だけします。経済で今日、商業動態統計と鉱工業生産が発表になっています。商業動態統計、10月は前月比でプラス0.4%。ごらんいただいたらわかりますように、10月は少し寒くなったこともあって、衣服が増えています。それからピンクの部分、自動車も引き続き7月以降、非常に好調に販売がなされています。

それから鉱工業生産であります。10月分は引き続き緑の輸送機械、自動車の生産、先ほどの販売も好調で、生産も非常に好調が続いています。そして黄土色というか黄緑というか黄色というかこの部分、汎用機械でコンベアとか業務用のタービンとかが増えているんですけど、これは物流などで出ているのかと思います。生産の中には輸出も含まれますので、国内用と輸出と少し分析を深めていきたいと思っています。さらに分析を進めます。

予測調査で12月はちょっとマイナスになっていますが、非常に好調が続いていますので、そういった生産調整みたいな関係もあるのかなと思います。このあたりも分析を進めていき

たいと思っております。

いずれにしても成長軌道にしっかりと戻していくために、経済対策、今日は自民党からも提言をいただきましたので、与党からの提言も踏まえて対応していきたいというふうに考えています。

私からは以上です。

(問) 小池東京都知事がG・T・トラベルについて観光庁に意見照会した、という御発言があったようですけれども、現在の進捗状況について教えてください。

2点目がイベントの人数制限についてです。プロスポーツなどの大規模イベントについて、強化の検討が必要というお話が以前あったと思うんですけれども、映画館とか規模の小さいものとか、屋外イベントについてどのようにお考えでしょうか。

(大臣) まず1点目。東京都から観光庁に対してこの週末、事務的にG・T・トラベルに関して、札幌市と大阪市に係る一時停止などの扱いについて意見照会がございました。その都度、速やかに回答を行っているというふうに観光庁から聞いております。私どもも東京都と実務的な様々な情報を共有しながら、特に感染状況、病床の状況などそういったことを共有しながら、緊密に連携しているところであります。引き続き連携して対応していきたいというふうに考えているところです。

それからイベントの開催制限については、当面2月末まで現行の制限を維持するというようにしております。その上でこれまでもそうであるんですけれども、都道府県知事の判断で感染が拡大している、あるいは病床への影響などを鑑みて、それぞれの判断でより厳しい制限を課すことも可能とされております。この旨で11月25日に改めて事務連絡を行ってきているところであります。それぞれの都道府県において適切に判断いただきたいと考えておりますが、様々な考えておられるんだと思いますので、この点も連携して取り組みたいと思います。

それから屋外のイベントについては先般、初詣であるとか食べ歩きはできるだけ控えていただく、あるいは食べる場所は一定の場所に限定してもらおうとか、様々な方向性を分科会でも御了解いただいたところでありますので、この旨を関係のところと連絡し、通知をしているところでありますので、現時点ではそれをしっかり守っていただくということが大事かというふう

に思います。

いずれにしてもエビデンスを大事にしながらか、スーパーコンピュータ「富岳」での分析とかシミュレーションとか、あるいは産総研で実測をして、そうしたものをエビデンスとして使いながら、そして全体の感染状況を見ながら、全体の方向性は、専門家の御意見も聞いて判断していければと思いますが、それぞれの地域の事情に応じて都道府県知事が適切に判断されるということでありますので、しっかりと連携を取って対応したいと思います。

(問) 先週金曜日に西村大臣は、神奈川県黒岩知事と会談をされたと思いますが、その後、黒岩知事が記者会見で明らかにされているんですけども、黒岩知事がステージⅢの宣言をするかどうかというのを検討されているというふうには大臣に伝えられたところ、大臣からは「ほかの急増地域においてもステージⅢとまでは言っていない。ステージⅢという状況ではないと国としては判断せざるを得ない。神奈川県が他県を抜いていきなり宣言するのは容認しがたい。全体の整合性が取れなくなってしまうので、神奈川県はステージⅢではない」と発言されたというふうには明らかにされました。

こういう考えを国が示すと、例えば圧力と感ずるとか、もしくは何か忖度しなきゃいけないと感ずるなど、自治体が主体的にステージ判断ができなくなるのではないかと思うんですけども。実際に副知事はステージⅢの警戒宣言になってしまったことを、苦渋の決断だったというふうにお話しされていて、大臣の発言の真意というか、どういう思いで発せられたのか、どういう判断だったのかというのを改めて教えていただきたいんですけども。

(答) 黒岩知事とのやりとりは非公式に行ったものですので、どういったやりとり、お互いにどういったことを言ったかということとは差し控えたいと思います。その後、知事あるいは副知事がどういう発言をされたか詳しい内容は承知しておりませんので、それへのコメントは控えたいと思います。

知事がステージⅢの警戒宣言を出されるということは、2人で会談したときに聞いておりましたし、そういう発言をされたということは承知しております。私からも、それから知事からの発言もそうですけれども、細かいやりとりは別として「ステージⅢが近づきつつあるという認識で一致した」ということを

ここで申し上げたとおり、知事と私の認識は一致しました。それは「ステージⅢが近づきつつある」という認識で一致した」ということでもありますので、そういうことは事実です。

今日持っている数字はその時点の数字と違いますけれども、必ずしも機会的に全部当てはめて、指標、目安を機械的に判断するものではありませんけれども、神奈川の場合、陽性率一つ取ってみても、重症者の病床を取ってみても、ステージⅢの指標には当たっておりませんので、2人の認識としてここで申し上げたとおり「ステージⅢが近づきつつある」という危機感を共有し、その認識を共有したというのは私が発言したとおりで、間違いのない事実です。そういった共有の認識に従って、知事は「ステージⅢ警戒宣言」ということを発出されたというふうに認識しています。

(問) 最終的な結論が近づきつつあるということによって一致されたというのは、黒岩知事もおっしゃられていました。ただ、その過程で国として「これはステージⅢではない」と。そして「ほかの急増地域がまだステージⅢというふうに判断していないのに、神奈川県だけ抜きん出るとするのは容認しがたい」というような御意見を出された。その点はいかがですか。

(大臣) 私がどういうふうに発言したか、これは非公式のやりとりですので申し上げませんが、私の認識は今申し上げたとおり、このステージⅢ・Ⅳの指標と見比べて、繰り返しになりますが、機械的に当てはめるものではありませんが、Ⅲに当たっていない指標も幾つか見受けられる中で「ステージⅢが近づきつつある」という認識、このことで一致をしたということです。私の認識もそうですし、知事の認識もそうです。

ですので、どういう説明をされたかわかりませんが、もしそうじゃない説明をされたら、それは事実と異なります。私と知事で一致した認識でありますので、それが紛れもない事実です。